森澤葉子・中島義和(2024),「自ら考え表現する生徒の育成を目指した対話的・協働的な授業づくりー「平和」をテーマとした教科等横断的な学習の学びを通してー」, 広島大学附属東雲中学校研究紀要「中学教育第53集」, 107－117

自ら考え表現する生徒の育成を目指した対話的・協働的な授業づくり

－「平和」をテーマとした教科等横断的な学習の学びを通して－

森澤　葉子　・　中島　義和＊

１．はじめに

授業実践者である森澤は，英語の授業をつくる上で，生徒が「自分ごととして考える」ことと，既習表現を使って「自分の言葉で表現する」ことを大切にしている。本授業を構想する際には，教科書の内容のみならず，所属学年の総合的な学習の時間や広島大学附属東雲中学校の特色の１つでもある国際交流活動と関連づけ，教科横断的に発展させることを意識して授業実践を重ねてきた。

本授業実践研究では，単元として，文部科学省検定済み教科書『NEW HORIZON English Course １』（東京書籍株式会社）のUnit 9 “Think Globally, Act Locally”を取り扱った。国際協力・交流イベントを通して，発展途上国に住む子供達の生活やボランティア活動を学び，世界に目を向けて自分にできることや実行する必要のあることを考えることができる単元である。本実践では，教科書の本課のタイトル“Think Globally, Act Locally”の内容をベースとして，生徒が「平和について伝えたい」思いを校外学習で学んだことを生かしつつ，次世代の平和の担い手として発信できるようになることを願って授業づくりを行った。

これらの授業実践者森澤の授業への思いを共同研究者である中島義和と共有した。そこで，中島からOECD（経済協力開発機構）が示す「OECD Education 2030」プロジェクト（アンドレアス・シュライヒャー 経済協力開発機構（OECD）教育スキル局長，文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室 訳，2018）が紹介され，本授業実践の一つの柱とすることが提案された。この中では，2030 年という近未来は，「VUCA」（不安定，不確実，複雑，曖昧）な状況が急速に進展する世界となることが予想され，教育の在り方によってその直面している課題の解決可能・不可能を左右すると言われている。そこで，この状況を生きる子どもたちに育成すべき力や育成の方法が議論され，子どもたちに求められるコンピテンシー，コンピテンシー育成につながるカリキュラムや教授法，学習評価などについて検討がなされてきた。このプロジェクトにおける基本的な考え方は，「子どもたちは自分の人生や周りの世界を良くする意思と力を持っている」というものであり，「生徒のエージェンシー」（student agency）を育成し，子どもたちが，変革を起こすために，目標を設定し，振り返りをしながら，責任ある行動をとる力を発揮することが求められるとされている。

そこで，以下の２つを意識し，授業構想・実践を進めるに至った。１つは「変革を起こす力のあるコンピテンシー」（Transformative competencies）であり，若者が革新的で，責任があり，自覚的であるべきだという強まりつつあるニーズに対応するものとして，子どもたちが，世界に

＊広島女学院大学人文学部国際英語学科

Yoko MORISAWA，Yoshikazu NAKASHIMA

A report of creating interactive and collaborative classes to nurture students who think and express themselves -Through cross-curricular learning on the theme of “peace”

貢献し，その中で成功し，より良い未来をつくりだすために必要な力を指している。具体的には，「新たな価値を創造する力」(Creating new values)，「対立やジレンマを克服する力」(Reconciling tensions and dilemmas)，「責任ある行動をとる力」(Taking responsibility)である。そして，もう１つは，授業を進める際のプロセスともなり得る「AARサイクル」である。本授業の大目標とも言える世界の平和も含まれる，集団のwellbeingの実現達成という目標に向けて，コンピテンシーを身につけていくために，様々な学習や活動の中で「見通し，行動，振り返り」（Anticipation，Action，Reflection＝AAR）の連続した過程を繰り返しつつ，様々な力を働かせながら学びを深めていけるよう，授業実践の際に意識するものとした。

以上を踏まえ，１年間学習してきたことを活用し，３学期に姉妹校生徒とやり取りできることを目標とし，**表１**の通り活動を実施した。

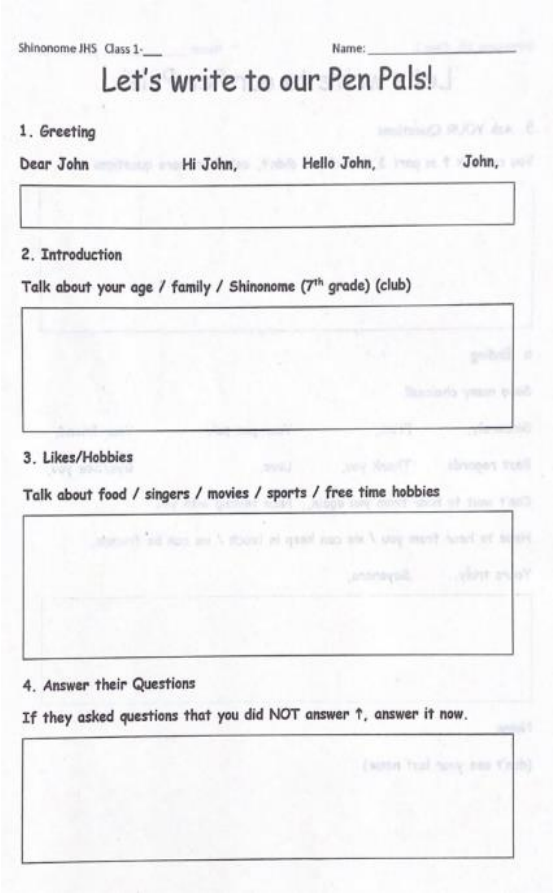
表１　英語で「表現する力」を育成する活動や課題

時期	活動	目標
４月	自己紹介をしよう 【話すこと】	・自分のことを知ってもらうために自分について説明することができる。 ・発表に必要な態度を学ぶ。 ・聴き手をひきつけられるように表現を工夫する。
７月	“１min チャット”をしよう 【話すこと】	・既習事項を活用し，１つのトピックについて会話をすることで，実際のコミュニケーションの場面で使える表現を学ぶ。 ・コミュニケーションの楽しさを学ぶ。
10月	Thank youカードを書こう 【書くこと】	・手紙の書き方を学ぶ。 ・気持ちを伝えるための表現を学ぶ。
	手紙を書こう① （姉妹校生徒とのペンパル） 【書くこと】	・書いて伝えるコミュニケーションの楽しさを学ぶ。 ・相手意識をもって書くことができる。 ・既習事項を活用し，自分について書くことができる。 ・実際に使える英語を学ぶ。
11月	平和に関するインタビュー番組を作ろう 【話すこと】 〈令和５年度本校教育研究会公開授業〉	・聴き手をひきつけられるように表現を工夫する。 ・発表に必要な態度を学ぶ。 ・平和について伝えたい内容や視点を自分たちで考え，話し合うことができる。 ・既習表現を活用しながら，表現方法を工夫することができる。

		・テーマに応じた番組構成を考え，原稿を作成し，発表することができる。 ・お互いに各グループの発表を見聞きし，気づきや学び等をシェアし，それらを取り入れてよりよい番組を作ることができる。 ・グループの一員として他のメンバーと協力しながら１つのものを創りあげる楽しさや喜びを分かち合う。
１月	“１min チャット”をしよう 【話すこと】	・既習事項を活用し，１つのトピックについて会話をすることで，実際のコミュニケーションの場面で使える表現を学ぶ。 ・コミュニケーションの楽しさを学ぶ。
２月	手紙を書こう② （姉妹校生徒とのペンパル） 【書くこと】	・相手が用いた表現を参考にして書くことができる。 ・質問に答えたり，返事の内容に関する質問を書いたりすることができる。
３月	平和について意見交流をしよう 【話すこと】	・自分たちの考える平和について意見交流をすることができる。 ・平和について伝えたい思いを，校外学習で学んだことを生かして伝えることができる。 ・コミュニケーションの楽しさを学ぶ。
	平和についてエッセイを書こう 【書くこと】	・戦争に関する資料や書籍を読み，意見文を書くことができる。

表１で挙げた活動の一部と授業実践のつながりを紹介したい。“１minチャット”では，１つのトピックに関して，相手の興味関心を引き出すことのできるような問いを考えて表現する練習を帯時間で繰り返し行った。１つのトピックから話題を広げることで，やり取りの回数を増やすことが目的である。言いたかったけど言えなかった表現を蓄積して全体で共有することを繰り返すことで，会話を広げる方法や便利な表現を学ぶことができた。

本校では本年度（2023年度）よりアメリカの姉妹校生徒とペンパルプログラムを行っている（**資料１・資料２**参照）。その取りかかりとして，文化祭後にクラスメイトにThank youカードを書く活動を通して，まずは手紙の基本的な書き方を学んだ。手紙でのやり取りを通して，相手の興味関心をひくことのできる質問をするための技法を学ぶことができた。また，同年代の相手が使った表現に興味を示し，その表現を真似する生徒もおり，英語学習の意欲向上にもつながり，新しい表現を学ぶ良い機会となった。インプットしたことを書く活動を通してアウトプットにつなげていくことで，正しく書いて表現する力を身に付けさせることができた。これらの取り組みを経て，平和についてのインタビュー動画を作成し，その動画を活用した意見交流の活動を行った。



Shinonome JHS Class 1-___ Name: _____

Let's write to our Pen Pals!

1. Greeting

Dear John Hi John, Hello John, John,

2. Introduction

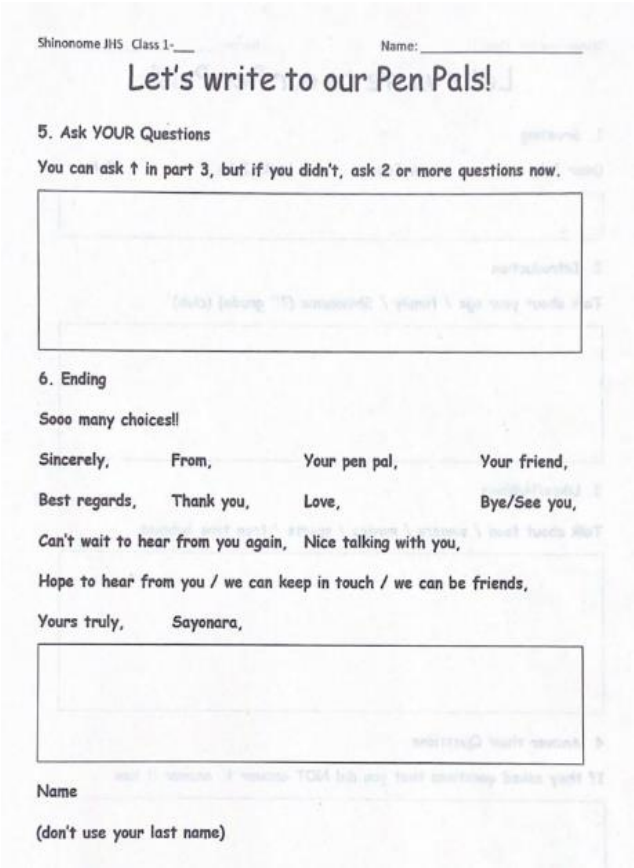
Talk about your age / family / Shinonome (7th grade) (club)

3. Likes/Hobbies

Talk about food / singers / movies / sports / free time hobbies

4. Answer their Questions

If they asked questions that you did NOT answer ↑, answer it now.



Shinonome JHS Class 1-___ Name: _____

Let's write to our Pen Pals!

5. Ask YOUR Questions

You can ask ↑ in part 3, but if you didn't, ask 2 or more questions now.

6. Ending

Sooo many choices!!

Sincerely, From, Your pen pal, Your friend,

Best regards, Thank you, Love, Bye/See you,

Can't wait to hear from you again, Nice talking with you,

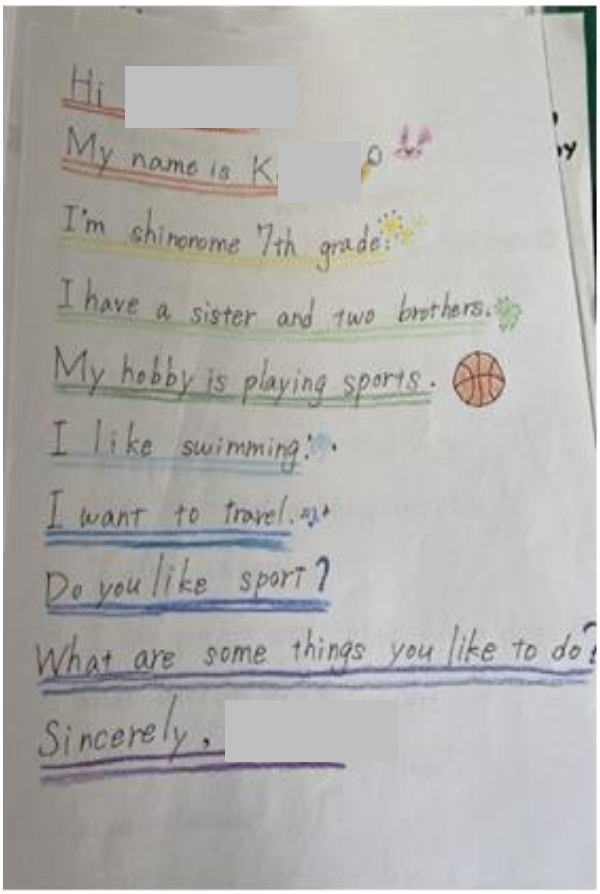
Hope to hear from you / we can keep in touch / we can be friends,

Yours truly, Sayonara,

Name

(don't use your last name)

資料１　「手紙を書こう」のワークシート



Hi

My name is K

I'm shinonome 7th grade.

I have a sister and two brothers.

My hobby is playing sports.

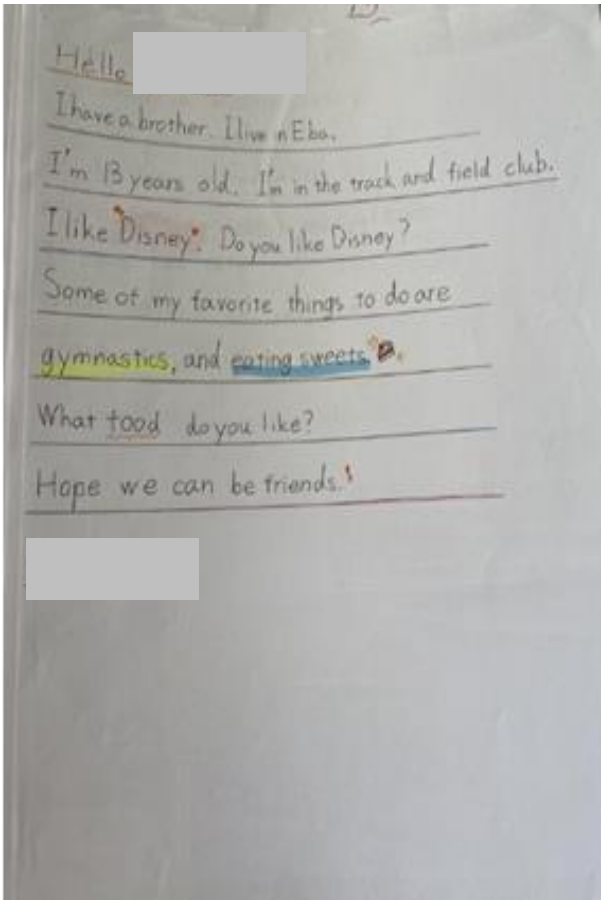
I like swimming.

I want to travel.

Do you like sport?

What are some things you like to do?

Sincerely,



Hello

I have a brother. I live in Eba.

I'm 13 years old. I'm in the track and field club.

I like Disney. Do you like Disney?

Some of my favorite things to do are

gymnastics, and eating sweets.

What food do you like?

Hope we can be friends.

資料２　「手紙を書こう」の活動で実際に生徒が書いた手紙

2．授業実践

本実践は全11時間を配当し，以下**表２**に示した流れで展開した。

表２　本授業実践の展開

次	時	学習内容
1	1	世界の子供達の現状を知る・SDGsについて考える
	2	Unit 9 文法
	3	Unit 9 内容理解①
	4	Unit 9 内容理解②
2	1	原爆の実相について知る
	2	伝えたいことと意見を考える（家庭学習）
	3	インタビューの方法を学ぶ・動画撮影①
	4	平和に関するインタビュー番組を作る・動画撮影②**（令和５年度東雲教育研究会）**
	5	インタビュー番組を練り直して完成させる
3	2	姉妹校生徒と自分たちが考える平和について意見交流する

※第１次：Think Globally，第２次：Act Locally，第３次：Think Globally

第１次では，“Think Globally”を主題として世界に目を向け，発展途上国の子どもたちの生活を知ることで自分にできることを考え，意見文を書く活動を行った。第２次では，“Act Locally”を主題として地域である広島に着目し，次世代の平和の担い手として今必要なことを考え，そこから平和に関する動画作成へとつなげた。また，第３次としては，再び“Think Globally”を主題とし，学年の総括的な学びとして学年末に，校外学習や教科書での学習の学びから，身近なところ・身の回りから平和について実践できることを総合的な学習の時間で考え，ペットボトルキャップを集めてワクチンに変える取組を実践した。**資料３**は総合的な学習の時間でのまとめの取組に際に掲示したポスターである。

資料３　総合的な学習の時間のまとめの取組の掲示用ポスター

以下に示す**表３**は，前掲**表２**の第２次４時間目は，令和５年度東雲教育研究会の公開授業として実施した。この時間の授業展開を以下に示す。（**表３**）

表３　令和５年度教育研究会の公開授業の時間の指導展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
１．【Anticipation：見通し】Unit９の振り返り・校外学習での平和学習の振り返り及び，本時の目標の提示（５分）	○目的，場面，状況を提示して，共通認識させる。
校外学習で学んだことを元に，平和に関するインタビュー番組を作ろう	
２．【Action：行動】動画①視聴・意見交流①（10分） ・あらかじめ撮影していた動画を基に，異なるグループで集まり，共有したい内容と視点を共有する。	
３．【Action：行動】意見交流②（５分） ・異なるグループの意見を持ち寄って内容を共有する。	○動画撮影②に向けて，10分間で何をするか見通しをもつために考えさせる。
４．【Action：行動】動画撮影の準備（15分）	◆平和について伝えたい内容や視点を自分たちで考えることができている。【主体的に学習に取り組む態度】
５．【Action：行動】動画撮影（５分）	○３分程度の動画を撮影させる。
６．【Action：行動】全体交流（５分）	○興味深い視点や内容に工夫のある班を選び，クラス全体で共有する。 ○生徒から意見を出させる。
７．【Reflection：振り返り】振り返り（５分）	○振り返りシートに記入させる。

写真２　異なる班の生徒と意見交流をしている様子

東雲教育研究会で作成した動画を活用して，本年度（2023年度）３月には，姉妹校の生徒たちと自分たちが考える平和についての意見交流を行った。その際，動画についての意見交流のみではなく，平和についてたずねたいことや自身が興味関心のある平和学習について事前に準備して考えた内容についても意見交流を行った。以下の**写真３**はその時の様子である。

写真３　姉妹校の生徒たちと意見交流をしている様子

３．結果―生徒の振り返り記述

東雲教育研究会、姉妹校の生徒との交流学習の振り返り、および姉妹校の生徒との交流学習への自由記述から森澤がいくつかを抽出し，以下に掲出した。次章において，森澤の授業実践者としての見取りと中島のこれらの記述への見取りを示す。

(1) 授業後（公開研究会）の振り返り

A	最初無理やり日常の平和についてつなげようとしていたけど，自分たちの日常に置き換えて考えると中身の内容も最初に比べて深く考えることができていた。
B	他の班からのアドバイスを生かして，内容を考えて分かりやすく視点が伝わりやすい内容にできた。
C	最初は何を伝えたらよいか考えることが大変だったけど，内容を深めるために，自分の個人研究と絡めて意見を考えることができました。
D	はじめに撮影した動画より平和の意味について考え，平和を実現する方法について深く考え，それを自分たちが知っている単語で分かりやすく表現することができた。「平和な世界をつくるために今必要なこと」と「今の現状」という視点で考えたけど，自分たちで考えた質問について全部自分なりに考えることができた。
E	内容がより深まっているなと感じました。理由をつけ足してより分かりやすいスピーチにしたり，質問を追加したりして自分たちが考えていることをより深く聞き手に理解してもらえるものになったと思います。翻訳に頼るのではなく，自分たちの習った言葉で表現することもできました。
F	はじめは何を言っているのかよく分からなかったが，班や個人で文脈や単語を工夫して，また言い方も文のまとまりや意味ごとで区切るなど工夫して全体的に伝えたかったことが伝わってきました。習った英語で同じような意味でも聞き取りやすかったり分かりやすかったりする方を選んで伝えたので，自分のパートもよくなっていて良かったです。
G	はじめは内容が小学生でも分かるような簡単な文法だったが，最近習った文法を幅広く使うことで内容を深くかつ伝わりやすい英文を考えらえるように少しはなりました。

H	最初はセリフを考えることで精いっぱいで内容が頭に入らなかったけど，練習するにつれて他の人の話も聞けるようになり，平和について考え直すことができた。また平和を自分事として考えるため，自分の意見をしっかり出せてよかった。
I	はじめに撮影した動画よりも内容を詳しくして文化の違いを超えて理解できるような内容に仕上がりました。前回よりも分かりやすい英語のフレーズで話すことができて本当によかったです。他の班が使っていた表現もうまく活用して話すことができました。

(2) 姉妹校生徒との交流後の振り返り（感想・気づき・学んだこと）

A	姉妹校の生徒に伝えるために平和について知らなかったことを知れてよかった。相手に伝えたいことを伝えるためには文法や正しい発音を知っていこうと思った。
B	今回自分の言いたいことを伝える大切さを学びました。今まで英語で何か伝えるという経験がなかったので，日常生活ではあまり使わない言葉を英語に直すことが一番難しかったです。苦労もしたけどこれからも伝えることを頑張りたいと思います。
C	最初は言っていることが分からなかったけど，聞き返すともう一度言ってくれたので，分からないことを聞き返すことは大事だと思った。そうすればコミュニケーションをとって通じ合うことができると思った。久しぶりに外国の人と英語でつながれて楽しかった。
D	実際に同学年の外国人と会話するのは初めてで緊張したけど，通じたことが分かって英語に対して安心感が芽生えたと思う。もっと外国人と会話したいと思った。英語をもっと学んで，コミュニケーション力を高めていきたい。
E	動画の内容は伝わってよかったと思うが，質問されたときの返し方が分からなかった。でもお互いが戦争や平和について考えられるような時間になれたと思う。
F	難しい言葉を簡単に直すパラフレーズを生かしてできたと思う。質問ややりとりを通して戦争のこと，平和の大切さを伝えることができた。今回は校外学習で分かったことや興味のあることを調べて自分の考えを英語で伝える活動だった。もっと違うテーマで外国人と話してみたいと思った。
G	自分たちの主張を自分たちで考えて話すことができました。姉妹校生徒の平和について知りたいことが分かりました。平和や戦争についての単語は難しかったけどとても勉強になった。

(3) 今回の授業を通しての感想や印象に残ったこと（自由記述）

A	外国人との交流は楽しいと感じた。伝わるかどうか分からなかったが，自分なりの伝え方で伝えることができてよかった。
B	印象に残っていることは班と話し合いながら内容を考えたことです。他の班の人からアドバイスを受けてみんなで練り直したり話し合ったりしました。言い合いになったこともあったけど，みんなで頑張りました。
C	広島の原爆や戦争について初めて外国人に伝えられて，戦争や平和を世界に伝えていくきっかけになったような気がして嬉しかったです。私たちとは違うやり方で平和にしていくための活動をしていることにも驚いたし他にどんなことをしているのか興味を持ちました。

D	「違い」があることを認め，受け入れ，当たり前にしていくことで平和が実現できるということが印象に残った。
E	内容をもう少し深堀して準備をしっかりやっていればよかったと悔しい思いをしました。準備を入念にして，伝えたいことをもっと伝えられるように意味が分かりやすい英語を選んでいきたいと思った。
F	姉妹校の生徒はあまり平和について学んでいないのに，自分の意見をしっかりもっていてとてもすごいなと思いました。自分の意見をもつことの大切さを学びました。
G	今までは英語が苦手だなと思っていたけど，今回の授業で少ししか分からないところがなかったので少し自信がつきました。もっと勉強してたくさん聞き取れたり話したりできるようになりたい。
H	姉妹校生徒に伝わるようにいろんな工夫をした甲斐があったと思いました。家でもたくさん調べて平和について教えたことが伝わってよかったです。もっとたくさんの人に平和について伝えていきたいです。

４．考察―授業実践者および共同研究者による見取り

(1) 授業実践者（森澤）による見取り

概して言えることは，日米の平和学習の違い，それぞれの平和観，違いを尊重することの大切さなど，外国人とコミュニケーションを図ることで得られる学びが多くあった。これらの学びが相乗効果を生み，もっと伝えたい・学びたいという学習意欲向上にもつながったと感じる。実際のコミュニケーションの難しさを感じるとともに，伝えるために必要な英語を学ぶ必要性を学ぶこともでき，英語学習への関心が高まったことも伺える。

(2) 共同研究者（中島）による見取り

東雲教育研究会での授業の振り返りからは，「考える」ことに対して当初は苦手意識や困難が感じられている生徒が，本実践を経て「考える」ことの成功体験や価値の見出しを行っていることがわかる。また，「表現する」ことに関しては，生徒たち自身の既知語・表現・言語材料の活用の実践とその意義や価値を見出している様子がうかがえる。さらに，これらの諸活動が他者との関わりの中で対話的・協働的になされたことで，学びの深まりや他者と学ぶ意義を再確認した生徒も多かったようである。このことから，授業実践者が本実践研究においてねらいとしている「自ら考え表現する生徒の育成を目指した対話的・協働的な授業づくり」への貢献の可能性が示唆される。

姉妹校の生徒との交流活動の振り返りや感想からは，コミュニ―ション・伝え合うことの意義や価値を実感した生徒が見出される。本実践における経験を通して，外国語（英語）を学ぶ意義や価値を肌感覚で実感できたことは英語学習への動機づけの面からとても大きいものである。姉妹校の生徒という，同年代ではあるが，異なる背景や文化，言語を持つ他者というリアルな対話の対象の存在との時間・空間を設定することができたのは，今後の学習活動にもプラスの影響をもたらしたに違いない。

さらに，テーマとして「平和」を設定したことについて，生徒の記述からは，その難しさを感じつつも，戦争や平和，広島と原爆について深く考えるよい機会となっていること，異なる他者との交流が「違い」があることの当然性や認め受け入れることの重要性の認識を強くした様子も見とることができる。本テーマについての自己の思考をさらに深め，より深い議論を姉妹校の生徒たちと

展開させたいという次なる目標にもつながるのではないだろうか。それは，総合的な学習の時間における平和学習への動機づけにもつながるものであり，教科等横断的な学びの創出に寄与していくものとなるだろう。この意味において，本研究の副題として示される「『平和』をテーマとした教科等横断的な学習の学びを通して」の実現の可能性も示唆される。

５．成果と課題

本単元での学習は，世界の子どもたちの様子を知り，将来なりたい自分や就きたい職業について考えることのできる内容であった。本実践では，教科書の内容を踏まえ，世界と地域に目を向けて，校外学習での学びを活かし，平和について伝えたい内容を生徒自身が考えて表現する授業づくりを行った。その中で，自己調整しながらどう伝えていくかという過程を大切にし，自分たちで目標を達成するために必要な視点を考えることに重点を置いた。話し合いを進めていく中で，「これでは伝えたいことが伝わらない」「表現が難しすぎる」「この質問では深められない」などの意見が多く出た。この生徒の姿は，対話的な活動を通して，まさにOECD Education2023プロジェクトにある，「対立やジレンマを克服する力」の育成につながるものと考えられる。

本授業実践の中では，自分たちの目標とする内容が伝わるかどうか意見をもらうために班ごとに動画を見合う活動を設け，意見をもらいたい視点についても自分たちで考えさせ，その都度目標に立ち返らせたり，意見交流する意図を伝えたりした。しかし伝えたいことを伝えようとするために完璧な英文を作りたがり，それが一つの弊害となり，使った英語が難しく，自分たちが伝えたいことが伝わらなかった。そのため，視点や目標に対する意見の共有ではなく，英語で表現しやすい声の大きさやジェスチャーなど態度に関わることに焦点が当てられ，交流活動は授業者が意図するものと異なり，あまり満足のいく内容とはならなかった。ただ，その後の授業で「もっと表現を知りたい」「自分たちが理解するだけではなく，姉妹校の人にも分かってもらえるように工夫して伝える必要がある」「誰にでも分かる英語を使う」などといった，相手意識をもった振り返りを書いていた生徒が多数いたことは一つの成果とも考えられる。

生徒の表現する力を育成するために，１年間様々な活動を仕組んできた。本授業実践においても，“ヘルプ＆レスポンス”の活動を取り入れ，自分たちだけではなくクラスメイトから意見をもらい，やさしい日本語で表現することで既習事項と結びつけることができていた。表現する力を身につけるためには，対話的・協働的な学びの経験が不可欠であると実感した。その力をつけるためには授業者の「問う力」も必要であると考える。問い方１つで表現力は変わる。思考を深め，適切な表現を用いて発信することのできる生徒を育成し，そのことを実践できる場面づくりに取り組んでいきたいと考える。

また，今後も生徒が考えて表現する授業づくりの方法を模索し，３年次には自分たち自身で授業をデザインし，平和について発信することができるように，２年次・３年次も継続して平和学習を積み重ねていくことで，真の平和の担い手の育成を目指していきたい。

【参考文献】

アンドレアス・シュライヒャー 経済協力開発機構（OECD）教育スキル局長，文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室　訳「教育とスキルの未来：Education 2030　仮訳（案）」『中等教育資料』平成30年5月号，2018.

笠島準一・ 阿野幸一・ 小串雅則・ 関典明ほか，『NEW HORIZON English Course』1,2,3（中学校英語科 令和３年度版 文部科学省検定教科書）.東京書籍株式会社,

鹿島真弓・石黒康夫，『問いを創る授業』，図書文化，2022.

中島義和，「表現の工夫を意識させる授業づくり―「表現する力」の育成を目指して―」『お茶の水女子大学附属中学校紀要』第 40 集，53-76，2011.

中島義和，「主体的・対話的で深い学びの創出を目指す教科等横断的な創作表現活動の実践研究―対話型リフレクションから活動の意義と価値を探る―」，第48回全国英語教育学会 香川研究大会 発表資料，2023

中島義和，「表現する力の育成と学校教育目標を意識した活動―生徒たちが自ら創り上げる英語発表活動を通して―」『お茶の水女子大学附属中学校紀要』第 41 集，73-100，2012.

中島義和，「コミュニケーショントピックとしての『日本』を知り，考え，発信へとつなげる英語科の授業を創る―ESD の視点から―」『お茶の水女子大学附属中学校紀要』第 44 集，1-26，2015.

文部科学省，『中学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説 総則編』東洋館，2017.

文部科学省，『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂，2017.

OECD Learning Compass　https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/learning-compass-2030/in_brief_Learning_Compass.pdf　（2023年8月16日閲覧）